

「落花生」生育情報（第1報）

平成21年7月17日
千葉県農林水産部
生産販売振興課

1 生育状況

本年は、は種時期ごろに周期的に降雨があり、出芽揃いや初期生育にはばらつきがありました。

梅雨入りは平年に比べ2日遅く6月10日であった。それ以降低気圧の影響で曇りや雨の日が多く、日照時間が平年に比べ少なかったが、気温が平年に比べ高く推移したことから、生育はやや徒長気味となりました。

7月に入り曇りや雨の日が多くなったものの、気温がやや高めに推移し、また、7月第2半旬以降好天が続いたことから生育は順調で、開花期も平年に比べ若干進んでおります。なお、7月10日現在の生育状況は、千葉半立、ナカテユタカとも「並」となっており、おおまきりも概ね順調に生育しています。

作況調査成績（7月10日調査）

品種名	年次	は種日	開花期	主茎長 (cm)	最長分 枝長(cm)	分枝数 (本/㎡)	生体重 (g/㎡)	生育 状況
千葉半立	本年	5/26	7/5	11.7	15.5	70.1	434.7	並
	平年	5/25	7/4	11.6	16.6	71.8	433.3	
	対比	1	1	101%	93%	98%	99%	
ナカテユタカ	本年	5/31	7/8	15.9	15.6	66.5	358.1	並
	平年	5/29	7/4	14.1	14.6	69.5	455.7	
	対比	2	4	113%	107%	95%	79%	

* 平年値は平成14～20年（過去7年間）の調査データから最大・最小を除く平均

* 対比は日数、または平年比

「落花生栽培管理簿」を記録しましょう

「食の安全性」に対する消費者意識が高まる中、農産物においても栽培方法や農薬の使用方法等、生産情報の提示が求められるようになってきました。

農薬は、農林水産省の登録番号のあるものを、適正に使用しましょう。

また、日ごろから栽培管理状況を記録して、流通業者や消費者にいつでも情報提供できるように整理しておきましょう。

2 これからの管理のポイント

今年のように生育初期に生育が抑制された落花生は、夏季の高温による影響を受けやすいので、「たっぷり水かん水」など以下の管理を徹底しましょう！！

マルチ除去を徹底しよう！

開花期（ほ場の50%程度の株に1輪でも花が咲き始めた日）から7～10日後には、マルチフィルムを除去しましょう。

マルチフィルムを除去しないと、雨水やかん水した水が十分いきわたらなくなるため、収量と品質の低下につながります。

なお、おおまさりの場合、生育が旺盛なため、花が咲き始めにマルチ除去を速やかに行ないます。

中耕・培土と石灰施用で収量増加！

中耕・培土を行うと、子房柄が地中にもぐりやすくなり、収量を上げる効果もあります。除草を兼ねて7月下旬までに行いましょう。

また、石灰は莢実の充実を促す働きがあり、不足すると空莢や未熟莢が増加します。子房柄の伸長時期から莢肥大期間の約1ヶ月間は、特に石灰が必要になるので、培土時に石灰を施用しましょう。

石灰施用量のめやす：苦土石灰（または消石灰）40～60kg/10a

ただし、基肥に十分石灰を施している場合など、土壌中に石灰が十分ある場合は、施用の必要はありません。

「たっぷりかん水」で収量確保！

7月下旬～8月上旬は、落花生は子房柄が伸長して地中で莢ができる時期になります。この時期に干ばつ害を受けると、空莢が発生し、収量が大きく減少します。

また、翌年の種子に発芽障害を起こす幼芽褐変症が発生し易くなります。

特に、梅雨明け直後は気温が上昇し、乾燥することがよくあります。

朝から葉が閉じたままの株が見え始めた場合は、1回に30ミリ以上をかける「たっぷりかん水」を行いましょう。特に「ナカテユタカ」は干ばつ害を受けやすいので、週1回を目安に「たっぷりかん水」を3回程度行いましょう。

病害虫は早期発見・早期防除を！

褐斑病は、夜間冷涼で多湿条件のときに多発します。県の病害虫発生予報では、褐斑病の今後の発生量は「並」と予想されていますが、褐斑病は発生初期の薬剤防除効果が高いので、発生がみられたら早期に薬剤散布し、防除しましょう。

褐斑病防除薬剤

発病初期から約 10 日おきに 3 回、下記薬剤のいずれかを散布する。

ダコニール 1000・トップジンM水和剤・トップジンM粉剤
バイコラル水和剤・マネージ水和剤・硫黄粉剤 80

* 使用法はラベルを確認してください *

白絹病は高温条件下で発生しやすく、地ぎわ部が侵され、発育不良や枯死する病害です。発生したときは、表土と一緒に被害株をすぐに抜きとってください。

白絹病防除薬剤

薬剤名	使用時期（使用回数）	10a 当たり使用量
フロンサイド粉剤	収穫 4 5 日前まで（1 回）	20kg

* 使用法はラベルを確認してください *

農薬散布に当たっては、登録のある農薬を、ラベルに記載された使用方法で正しく使いましょう。

農薬は他の作物等に飛散しないように気をつけて散布しましょう。